

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度 第3回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	令和5年10月24日(火) 19時00分～21時00分
開催場所	高松市防災合同庁舎 5階 503会議室
議 題	(1) 第3期高松市文化芸術振興計画(案)について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
出席委員	青山委員、金川委員、鹿庭委員、北岡委員、木ノ下委員、島田委員(副会長)、多田委員、田中委員、橋本委員(会長)、三木委員、水嶋委員、若井委員 計12人 (欠席3人 甘利委員、鎌田委員、林委員)
傍 聴 者	1人 (傍聴席4人程度を確保)
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 087-839-2636

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 審議会の公開・非公開について審議がなされ、公開の決議がなされた。</p> <p>(1) 第3期高松市文化芸術振興計画(案)について 第3期高松市文化芸術振興計画(以下「第3期計画」と称する)の素案について事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p>(委員) 東京オリンピックの終了やコロナ禍の影響で、社会の文化芸術に対する優先順位が下がってきている。しかしながら、お金を払って文化芸術を鑑賞すること、受益者負担は重要であり、そのためには、長期的スパンで、金銭的な支援を含めた文化芸術を発表しやすい、アーティストが育ちやすい支援が必要である。</p> <p>(事務局) それらの支援については、今後構築する地域アーツカウンシルが、その役割を担うと考えている。</p> <p>(委員) 社会福祉と文化芸術が繋がった活動はイベントのようなものが多いが、日頃から文化芸術に触れられない人が継続的に触れられる取組が必要ではないか。</p> <p>(事務局) 第3期計画に則り、社会包摂の視点も入れながら、現在行っている事業に加えて、検討していく。</p> <p>(委員) 第3期計画に文化芸術を始めようとする方への支援は無いのか。</p> <p>(事務局) 第3期計画に高松版文化芸術プラットフォームの取組があり、この取組が文化芸術を始めようとしている方への支援に繋がると認識している。</p>

(委員)

計画に記載されている専門用語の説明はないのか。

(事務局)

専門用語の説明は計画に記載することとしているが、分かりにくいところもあるので、表記の方法を検討する。

(委員)

少子化等に伴う人材不足に対応した連携の形をアーツカウンシルで議論することが大事。また、アーツカウンシルが文化芸術について学ぶ場の役割を担えるといい。自己負担を前提とした助成制度の改善や、アーティストが持つ技術や知的財産等の見えづらい価値を理解してもらうことも大切にしてほしい。

(事務局)

アーツカウンシルがそのような役割を担えると考えている。計画で見えない部分は、計画を実行する中で対応するよう努める。

(委員)

「第3章 計画の推進体制」の「協働による計画の推進」に文化芸術市民の役割について記載があるが、様々な捉え方ができてしまうので、この記載内容の工夫はできないのか。

(事務局)

この記載内容は、基本的に高松市文化芸術振興条例から引用している。

(委員)

文化芸術ホールなどで、子どもたちの身近にアーティストがいることで、そのアーティストの活動に周囲の人を連れて参加し、鑑賞の機会の増加に繋がると考えられるため、そのような機会の創出ができれば良いのではないのか。

(事務局)

第3期計画においては、「方針2 であう・ひろがる」の「(1) 環境の整備」において、新たに文化芸術ホールでの取組を明記しており、地域アーツカウンシルの専門人材の意見も活用しながら、今後の取組を検討したい。

(委員)

第3期計画のデザインを工夫して、文化芸術活動の敷居を低くすれば良いのではないのか。

(事務局)

見やすい概要版の作成を検討しているほか、別の事業で子ども向け冊子も作成している。

(委員)

プラットフォームやアーツカウンシルなど、新しいことを決めるに当たって問題が発生した場合、決定権は誰にあるのか。また、予算不足で実現しないといった事態になりかねないので、注意してほしい。

(事務局)

その辺りも十分に検討していく。

(会長)

アーツカウンシルやプラットフォームについては、あまり硬直化した制度にならないようにして、高松市の文化が豊かになっていくことを目指す、気軽に立ち寄れて色々な人が出会えるような場になったらいいと思う。

(委員)

プラットフォームの最初のコンセプトだったと思うが、文化芸術ホールが普段出会わない人が出会う場になり、色々なことが話し合えて、予期しなかったことがで

きるような場所になれば良いと思う。

(会長)

基本的には、高松市の色々な文化施設が連携できるようになったら良い。文化芸術ホールや美術館など、メインとなる施設が連携した空間としてうまくできれば良いと思う。

(委員)

イベントが全て網羅できるような一覧がほしいという話を以前したが、それに加えて、人材に関する情報や受賞一覧等、活躍状況が見られるものがあれば繋がりやすい。

(委員)

文化芸術の様々な分野について、主催者に関係なく、どこで何をしているかといった発信に力を入れて欲しい。

(事務局)

高松アートポータル事業（仮称）という取組を計画しており、文化芸術に関わる情報を網羅的に集約してそれを蓄積して発信する仕組みとなるようにしたい。

(委員)

横の繋がりが薄いので、施設情報を SNS 等に掲載しているが、登録してくれる人が少ないため、市で発信していただくと助かる。

(会長)

同じジャンル同士の繋がりを作る仕組みが必要であり、仕組みができれば活動をする人たちもお互い繋がることができると思っていて、プラットフォームがそのような場になってほしい。

(委員)

32の具体的取組について、「方針1 はぐくむ・いかす」の中に文化芸術ホールの記載がないが、文化芸術ホールを子どもに活用してもらって、親しんでもらいたい。記載の有無については何か基準があるのか。

(事務局)

32の具体的取組については、例えば、必ずしも方針1に入っているからといって方針1だけの関係施設ということではなく、基本的施策、具体的取組に基づいて実施する個別事業としては色々なものがある。

(委員)

文化芸術ホールは非常に話題になっている施設であり、アーツカウンシルの方々が扱う新しいことには当然、「はぐくむ・いかす」の要素が入ると思う。

(事務局)

文化芸術ホールは全ての方針に関わる施設だと思うので、記載については工夫したい。

(委員)

条例を推進する計画が第3期に至っていることに感銘を受けている。結局、実施主体が文化芸術振興課になっていて、実施機関として市民の活動をどのように網羅していけるかが課題だと思う。また、定量的・数値的な評価は一定数重要だと思うが、図式案を作る際には、慎重に、アンケート調査のみの評価に偏ることなく、エピソード評価など、数値化できないが見えない個別性を見える化するような仕組みや評価の指標を意識的にしていくと、計画案がより鮮やかに見えてくると思う。

(事務局)

見えない数値、個別性を見える化することは重要だと思うので、その点を含め、いただいた意見を踏まえて検討し、最終的には会長と調整したい。

以上